

岩倉市議会公明党 行政視察 報告書

作成者：鬼頭博和、谷平敬子

参加者：鬼頭博和、谷平敬子

神奈川県平塚市

調査日時：令和元年11月13日（水）13:00～15:00

※対応して頂いた皆様

平塚市議会副議長 秋澤 雅久様

平塚市福祉総務課 木川様

平塚市横内地区町内福祉村運営協議会 会長 松田 和夫様

調査事項：「町内福祉村の取り組みについて」

1 事業開始の経緯について

平成8年5月、当時の吉野市長の指示により福祉村構想が持ち上がったのが始まりである。高齢化を背景に地域での支え合いが必要となる時代を見越した、当時としては非常に先進的な取り組みであった。最初の取り組みは、市内の松原地区をモデル地区に指定し、公立幼稚園の廃園に伴い、施設利活用の一環として拠点を確保。約1年をかけ、地域の方々と市が意見交換しつつ検討し、松原地区町内福祉村設立総会を開催。コーディネーター向けの研修会も実施した。研修会は市と社協の協働により実施している。平成11年2月に第1号となる松原地区を皮切りに各地で設置が進んだ。最初は市が主導し福祉村の立ち上げに力を入れたが、4番目の金田地区からは、地域のメンバーが中心となって設立に携わり、市は運営資金の援助や連絡調整など、社協も後方支援に回り、お手伝いをするといった形で現在も行われている。昨年3月に18番目となる豊田町内福祉村が誕生。福祉村発足から20年以上の年月が経過しているにもかかわらず、目標は市内25地区ということである。

2 町内福祉村の仕組みについて

町内福祉村は、各地区に拠点を設置し活動を行っている。拠点は、公共施設であったり、アパートの間借りや、閉店した商店を改装して拠点到り上げたものなど様々である。拠点には、地域住民から選ばれたコーディネーターが常駐し、地域の皆さんからの相談を受けたり、福祉村のボランティアに身近な生活支援活動を依頼する。福祉村で対応が難しい場合には、行政や関係機関などにつなげ

ていく。また、拠点では、地域の皆さんが気軽に立ち寄れる「居場所」として、ふれあい交流活動を行っている。活動については、全て無償で行っているということである。

町内福祉村では『身近な生活支援活動』と『ふれあい交流活動』を2本の柱として、それぞれの地区の状況にあった活動をしている。活動のメニューやマニュアルは、地域の皆さんが話し合いを重ね、その地区独自のものをつくっている。

《身近な生活支援活動》としては、地区内に住む援助を必要としている人を対象に、車いすの貸し出し、ゴミ出しの手伝い、話し相手、外出の付き添い、ついでの買い物、電球交換などのちょっとしたボランティアで、生活支援の主な対象者は、事業実施地区に住んでおられる、ひとり暮らしの高齢者、高齢者のみの世帯、昼間独居の方、障害のある方、家庭で介護している方、認知症高齢者を抱えた家庭、ひとり親家庭など多岐にわたっている。

《ふれあい交流活動》では、拠点や自治会館等で、地域の方が気軽に立ち寄れる「たまり場」として、ふれあい交流活動を行っている。高齢者のサロンや子育て支援活動、子どもとお年寄りとの交流など人と人とのつながりを企画している。

3 平塚市の横内地区町内福祉村「スマイル広場」について

拠点は、以前酒屋であった店舗を改造したもので、1階はサロン、2階は会議室になっている。1階のスマイル広場では、行っている行事のチラシや、子どもたちが描いた絵などが展示してあり、当日は、近所の方々が集まってカラオケを行っていた。横内地区のボランティアは現在93名で女性が53名、男性が40名ということで、男女比がほぼ同じといったところを見ても、非常にバランスの取れた体制になっている。

【所感】

高齢者が増えていく中で、市だけでなく自治会や社協、民生委員、関係団体を中心となり各種福祉事業所なども連携し、ボランティア活動として地域住民が主体となって、地域における支え合いの仕組みを作ることが重要である。

岩倉市においても、このような取り組みが空き家対策としてボランティア活動の拠点整備ができるよう提案していきたい。

埼玉県新座市

調査日時：令和元年11月14日（木）13:00～15:00

※対応して頂いた皆様

新座市議会議長 島田 久仁代様

新座市議会事務局長 島崎 昭生様

新座市教育委員会学校教育部 副部長兼教育支援課長 大井 敏彰様

調査事項：「中学校女子制服の選択制の取り組みについて」

1.選択制にしたきっかけについて

市内には6校の中学校があり、第6中学校では市内で唯一の自転車通学が行われている学校で、普段からスカートの下に体操服の短パンをはく女子が多かった他、市内の小学校でもパンツ姿の女子児童が多かったことなどから「制服の選択肢を増やしてもいいのではないか」という議論があった。また、学校指定品検討委員会では、中学校の指定カバンが150と小さく所属する部活動によっては、荷物を収納しきれないことも増え、2個のバックを使って登校する生徒も増加していることから、大きなバック（300程度）一つで対応したほうが経済的であるということで、バックの自由化が決定された。制服についても当初は2021年度から変更することで、検討していたが、平成30年10月に小学5、6年生の保護者に行ったアンケート調査の結果、350人中、パンツスタイル導入の賛成が195、反対が29、どちらでもないが、126と賛成が大幅に上回ったという。このことから、本年の4月から女子用の制服にパンツスタイルを追加し、選択制とした。

2.保護者や生徒の声はどのように集約したか

選択制としたことで、反対する意見は特になく、逆に生徒からは、「スカートよりも活動的」「足長に見える」など良い意見が多く寄せられているということである。制服の価格はスカートとほぼ同じ価格（1万2千～1万4千円）で、提供できることで保護者に対する負担もほとんどないということである。

3.今後選択制は市内で広がっていくか

今の所、第六中学校のみの対応で、その他の中学校に広げる予定はないとのことである。今後、このような意見がでてくれば、その時点で検討するとのことであった。過去に、個別の案件により、特別に男子であっても女子の制服を許可した例があるとのことでした。個別の対応については、学校ごとの判断で行っている現状である。

4.現在スラックス着用は何割くらいか

中学校1年生約200名中、10名程度が着用中であるとのことである。2,3年生においては、0名である。県内においても女子生徒にパンツスタイルを導入している学校は珍しいとのことであった。

【所感】

学校指定の制服、体操服、バックなどの見直しの機会を捉えて、今回パンツスタイルの導入になったということで、特別LGBTの生徒に対する配慮から行われた訳ではないということであった。

ジェンダー平等に関する世論が高まっている現状も踏まえての変更であり、LGBTを前面に押し出す方向よりも、この様な形が好ましいと思いました。岩倉市においても、学校指定品について見直しをするときには、新座市が取組んだ内容を参考に女子生徒へのパンツスタイル導入の検討をするべきであると感じました。